

## 1 事業の成果

同性愛者や性同一性障害など性的マイノリティの人たちが恒常的に集えるコミュニティスペースを常時（週4日・年間述べ181日）オープンし専門のスタッフが常駐していることにより、そこがハブとなり、行政・教育などと連携が図れ、講演をはじめ様々な事業の増加にもなっている。

近年、教育や福祉などの支援機関からの相談が増えていることから、今年度から援助者が自由に集い話ができる援助者向け交流会「SHIP えんぽーと」を開始した。

### (1) 健康支援

HIV 即日検査・カウンセリング・電話相談など総合的なサポート体制により、心と身の健康支援を実施。HIV 性感染症検査は年11回実施し154名が受験。HIV(+)2件、梅毒TPHA(+)18件、B型肝炎3件の陽性者を医療機関につなぐことができた。

また、カウンセリング事業は年間44日実施し、延べ相談件数114件の相談を実施した。

電話相談事業「SHIP ほっとライン」の相談件数：今年度247件は2014年度の件数減少から再び増加回復に転じている。例年回線を開いている時間帯は常に架電があり、最近の件数の増減はむしろ相談人員の不足による休業日の多寡が影響しているものと思われる。

### (2) コミュニティ支援

性的マイノリティが自由に集える交流スペースを週4日間、年間181日間オープンし、327名の利用があった。アンケート協力者327人のうち新規利用者が48人（14.7%）で、リピーターが279人（85.3%）であった。年齢別では、10代19人（5.8%）、20代55人（16.8%）、30代94人（28.7%）、40代73人（22.3%）、50代以上86人（26.3%）と30代以上が全体の7割以上を占めていた。また、職業別では、社会人が57.8%、学生28.1%、無職が13.7%であった。

グループミーティングは、セクシュアリティや年齢別に7種類、58回開催し、参加者数は延べ303名であった。またオンライントークイベントを6回開催し、参加者数は延べ56名であった。

また、行政との連携により、神奈川県においてはピアサポート相談事業を9回開催、横浜市においては交流スペースを19日間開設、横須賀市においては交流会を12回開催した。

### (3) 性的マイノリティの人権擁護に関する一般社会への啓発

教育機関・行政における講演の回数は136回であった。（前年度は126回）。

## 2 事業内容

### (1) 特定非営利活動に係る事業

#### ① 健康支援事業

##### ア HIV/AIDS等性感染症の検査の実施（厚生労働省エイズ対策研究事業）

- ・ 内 容 HIV・性感染症検査（即日検査）
- ・ 日 時 年11回 第三月曜日、受付時間 17:40～20:00（終了22:00）
- ・ 場 所 かながわ県民センター
- ・ 従事者人員 延べ44人（医師、看護師、検査技師、事務）
- ・ 受益対象者 県内および首都圏に住むゲイ・バイセクシュアル男性154人
- ・ 支 出 額 922,326円

イ カウンセリングによるメンタルヘルス支援

- ・内 容 希望者に対するの対面面接による問題解決支援
- ・日 時 隔週金曜 15 時～20 時、隔週土曜 12 時～17 時（計 44 回）
- ・場 所 横浜 AIDS 市民活動センター（中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9 階）
- ・従事者人員 延べ 44 人（臨床心理士）
- ・受益対象者 来談者 延べ 114 人
- ・支 出 額 378,824 円

ウ ホットラインによるメンタルヘルス支援

- ・内 容 電話相談
- ・日 時 毎週木曜 19 時～21 時（2 時間）
- ・場 所 特定非営利活動法人 SHIP の事務所
- ・従事者人員 延べ 102 人
- ・受益対象者 相談成立 延べ 247 名
- ・支 出 額 484,252 円

エ 横浜市個別相談・交流スペース事業（横浜市委託事業）

[横浜市個別相談]

- ・内 容 臨床心理士による無料の対面相談
- ・日 時 4 月～3 月までの期間 24 日（1 日 2 枠）
- ・場 所 横浜市内（横浜市青少年相談センター、西区福祉保健活動拠点「フクシア」）
- ・従事者人員 延べ 24 人
- ・受益対象者 延べ 18 人

[交流スペース]

- ・内 容 性的マイノリティの交流スペースの運営
- ・日 時 4 月～3 月までの月 2 回（計 24 回）
- ・場 所 横浜市内（男女共同参画センター横浜、男女共同参画センター横浜北）
- ・従事者人員 延べ 26 人
- ・受益対象者 延べ 99 人
- ・支 出 額 1,524,866 円（横浜市個別相談・交流スペース事業）

オ 神奈川県派遣相談（神奈川県委託事業）

- ・内 容 臨床心理士など専門相談員の派遣相談
- ・日 時 4 月～3 月までの期間 計 36 回
- ・場 所 県内（学校や公共施設）
- ・従事者人員 延べ 36 人
- ・受益対象者 延べ 36 人
- ・支 出 額 311,813 円

カ 横須賀市派遣相談（横須賀市委託事業）

- ・内 容 臨床心理士など専門相談員の派遣相談
- ・日 時 4 月～3 月までの期間 計 9 回
- ・場 所 県内（学校や公共施設）
- ・従事者人員 延べ 9 人
- ・受益対象者 延べ 9 人
- ・支 出 額 45,394 円

キ 大和市派遣相談（大和市委託事業）

- ・ 内 容 臨床心理士など専門相談員の派遣相談
- ・ 日 時 7月～3月までの期間 計0回
- ・ 場 所 県内（学校や公共施設）
- ・ 従事者人員 延べ0人
- ・ 受益対象者 延べ0人
- ・ 支 出 額 0円

ク 相模原市保健所臨時検査

- ・ 内 容 即日検査の広報、検査技師と相談員の派遣
- ・ 日 時 12月12日（1回）
- ・ 場 所 相模原市内
- ・ 従事者人員 延べ2人
- ・ 受益対象者 延べ31人
- ・ 支 出 額 55,766円

② コミュニティ支援事業

ア コミュニティスペースの運営

- ・ 内 容 性的マイノリティが恒常的に集える場所としてコミュニティスペース「SHIPにじいろキャビン」を開設し、情報の提供や相談を実施する。
- ・ 日 時 毎週水・金・土曜 16:00～20:00、日曜 14:00～18:00 延べ181日
- ・ 場 所 特定非営利活動法人SHIPの事務所
- ・ 従事者人員 181人
- ・ 受益対象者 県内および首都圏に住む性的マイノリティ 述べ327人
- ・ 支 出 額 2,804,343円

イ グループミーティングの開催

- ・ 内 容 性的マイノリティやその家族が交流できるグループミーティングの開催とラジオ配信。
- ・ 日 時 4月9日～3月31日の期間 58回、ラジオ配信22回
- ・ 場 所 かながわ県民センター、神奈川県内公共施設等
- ・ 従事者人員 延べ168人
- ・ 受益対象者 県内および首都圏に住む性的マイノリティ、およびその家族 延べ303名  
ラジオ再生回数800回
- ・ 支 出 額 1,281,059円

ウ 「かながわ にじいろ・ほっとスペース」の運営（神奈川県委託事業）

- ・ 内 容 性的マイノリティのピアサポート相談事業の運営
- ・ 日 時 4月～3月までの月1回（計9回）
- ・ 場 所 藤沢市、厚木市、小田原市内の公共施設
- ・ 従事者人員 延べ18人
- ・ 受益対象者 延べ41人
- ・ 支 出 額 286,074円

エ オンライントークイベントの開催（自主事業）

- ・ 内 容 性的マイノリティ当事者の座談会形式によるオンラインイベント
- ・ 日 時 5月～3月の期間（計6回）

- ・ 場 所 オンライン
- ・ 従事者人員 延べ 27 人
- ・ 受益対象者 延べ 56 人
- ・ 支 出 額 150,899 円

オ 横須賀市性的マイノリティ交流会の運営（横須賀市補助事業）

- ・ 内 容 横須賀市における 10 代・20 代を対象としたグループミーティングの開催
- ・ 日 時 4 月～3 月の期間 12 回
- ・ 場 所 横須賀市内、公共施設
- ・ 従事者人員 延べ 24 人
- ・ 受益対象者 横須賀市とその周辺地域の性的マイノリティ 延べ 18 人
- ・ 支 出 額 411,600 円

③ 性的マイノリティの人権擁護に関する一般社会への啓発事業

ア 一般社会への啓発事業

- ・ 内 容 性的マイノリティの理解に向けた講演を実施。
- ・ 日 時 4 月～3 月まで、延べ 136 回
- ・ 場 所 小中学校、高等学校、大学、行政施設、公共施設など
- ・ 従事者人員 延べ 136 人
- ・ 受益対象者 県内の学校教職員・生徒・学生、行政関係者、一般市民 延べ 10,700 人
- ・ 支 出 額 3,236,478 円

イ 資材の作成

- ・ 内 容 生徒・保護者向け啓発資材を作成し、学校の講演などで 22,600 部を配布。
- ・ 日 時 4 月～3 月
- ・ 場 所 神奈川県内
- ・ 従事者人員 延べ 2 人
- ・ 受益対象者 教育関係、一般市民など 約 22,600 人
- ・ 支 出 額 129,360 円